



Nursing in TOKYO

会報「看護とうきょう」

Vol. **128**
2019. January



特集

もうすぐ完成！
生まれ変わる
会館のレイアウトを
ご紹介します!!



ごあいさつ	3
特集 待望の新会館、いよいよ3月に竣工！！	4
TOPICS 人 鈴木恭子さん	8
平成30年度 看護研究学会 特別講演・インタビュー 宮本哲也氏	10
ラグビーの魅力を、ぜひスタジアムで！	12
「初心者向け英会話研修」絶賛開催中！	13
「中国語会話研修」がスタートしました	13
保助看のページ	14
第1回 海外ボランティア研修企画 ハワイボランティア研修	16
第51回 看護学生看護研究学会報告	16
第52回 看護研究学会報告	17
教育部研修係から	17
東京都 島しょ看護職員定着促進事業	18
委員会活動 感染対策委員会	19
東京都助産師出向支援導入事業 出向助産師実践報告	19
図書室だより	20
東京都ナースプラザだより	21
第1回 介護&看護EXPO [東京] 出展報告	22
HOSPEX Japan 2018 出展報告	22
2019年度 東京都看護協会・日本看護協会入会受付	23
事務局からのお知らせ	24

※「看護とうきょう」は協会ホームページにも掲載しています。

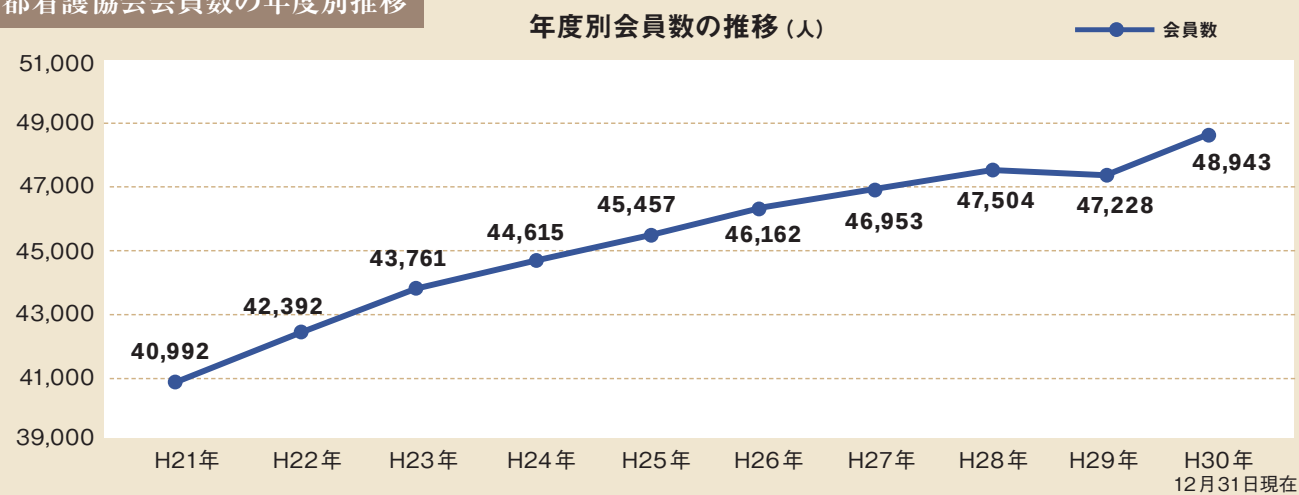
未入会の方に入会をすすめましょう

平成30年度東京都看護協会会員数 **48,943名** (平成30年12月31日現在)

	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
会員数	415 名	2,153 名	45,773 名	602 名	48,943 名
就業数	3,762 名	3,792 名	104,744 名	13,476 名	125,774 名
入会率	11.0%	56.8%	43.7%	4.5%	38.9%

就業数は平成28年12月31日現在の「東京都における看護師等業務従事者届集計報告」による

東京都看護協会会員数の年度別推移



ごあいさつ

動画で配信



公益社団法人 東京都看護協会
会長

やまもとけい こ
山元恵子

新年あけましておめでとうございます。2019年・平成31年は平成最後の年であり、新たな年号がはじまる歴史的な年となります。会員ならびにご家族の皆さま、2019年のスタートはいかがでしたでしょうか？ 東京都看護協会は、本年3月に新会館が竣工する記念すべき年の始まりとなります。

新会館移転に伴い教育部では、ICT化 (Information and Communication Technology) とグローバル化のさらなる推進を計画しています。特に、外国語対応可能な人材の育成事業である初心者英会話研修に中級を加え、中国語研修を年2回と開催数を増やします。東京2020オリンピック・パラリンピック支援や国際ボランティア活動を通し、会員の皆さまが一人でも多く海外で活躍できるように後押しを進めてまいります。

事業部では、都庁との至近距離という地の利を生かし、都からの委託事業がより効率的に効果的に、地域共生型社会の実現に向け、災害時の支援や地域包括ケアの成果を都民に還元します。また東京都からの直営委託事業であるナースプラザでは、看護職の確保・定着ならびに復帰に対するきめ細やかな支援と200床未満の病院巡回訪問の実施により、看護管理者のサポートに積極的に取り組んでいます。

新会館では皆さまから愛され、親しまれ、会員だけでなく看護に関わるすべての職種が集う「看護の知の拠点」として、看護職の存在価値を広く社会にアピールしていきたいと考えています。これからも変わらぬご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

専務理事 渡邊千香子



新春のスタートにふさわしく、当会は昭和23年の開設以来、初の自地所での新会館事業が4月にスタートします。当会の飯田橋会館の歴史は、平成12年10月に渋谷から当地に移転、開所して始まりました。当時は「東京都ナースプラザ」の3階に間借りする形で引越し(賃貸)、平成13年から16年にかけて段階的に「東京都ナースプラザ」から全館を購入しました。

その後、平成20年度「新会館検討委員会」において、当会館の老朽化、狭隘化、さらなる公益事業拡大の必要性が示され、建築計画に着手。平成25年度の通常総会において議決され、今日の運びとなりました。今回の新会館建設には、歴代会長の強いリーダーシップと諸先輩方のご努力、会員の皆さまのご理解とご協力など、多方面からのご支援の賜物であると感謝に堪えません。新会館が皆さまにとりまして居心地のよい会館となるよう努力してまいりますので、今後ともお力添えをよろしくお願い致します。

常務理事 (教育部担当) 大橋純江



謹んで新年お慶び申し上げます。教育部は看護職の資質向上事業として、研修や学会において年間約11,000名以上の看護職の皆さまにご活用いただいております。加えて、次世代育成事業として看護学生学会を半世紀以上に渡って開催し、延べ約10万人の看護学生の支援をおこなってまいりました。今年度は新会館になり、初めて自施設で看護研究学会を開催することができます。会員の皆さまの好奇心を揺さぶる企画を進めておりますので、ぜひご期待ください。

常務理事 (事業部担当) 黒田美喜子



会員の皆さまとともに初春を迎えられますことに感謝申し上げます。事業部では毎年たくさん、東京都からの委託事業の実施と発展に貢献しています。加えて、当協会の独自事業として両親学級・すくすくフェスタ、災害支援ナースの育成、訪問看護・居宅介護支援事業など、地域の多職種連携・協働事業を実施しています。また5月の恒例の看護フェスタでは、毎年約1,500人余りの都民の皆さまがお越しになり、看護職に対する信頼と期待の大きさを肌で感じています。今年も5月18日(土)新宿広場で、皆さまのお越しをお待ちしています。

待望の新会館、いよいよ3月に竣工!!

平成31年（2019年）3月中旬、東京都看護協会の新会館がいよいよ西新宿に完成します。
「木漏れ日の下、つながる場所へ」をコンセプトに、東京都の看護職の方々が集い、
世界に羽ばたいていく拠点にしていきたいと思っております。
ぜひ、皆さまお気軽にお立ち寄りください。完成まであと少し、乞うご期待!!



新会館イメージ（南側）



方南通り（北側）から見たエントランスの景観イメージ



エントランスアプローチのイメージ

建設風景

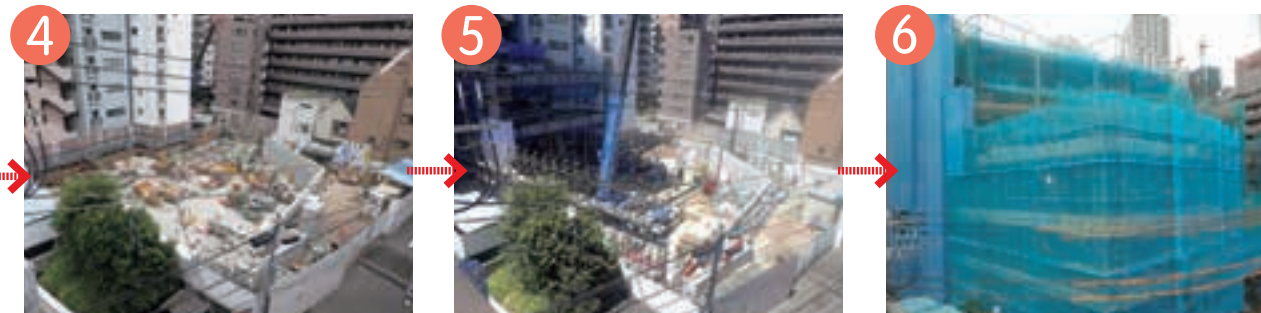
平成29年12月から新会館建設工事を着工。これまでの歩みを一気にプレイバック!!



平成29年12月 更地

平成30年3月 地盤改良工事

平成30年5月 基礎工事完了



平成30年6月 北側1階までの外壁完成

平成30年7月 鉄骨組み立て開始

平成30年9月 6階まで鉄骨組立て



平成30年12月 内部建築、外壁取付開始

平成31年3月
完成予定!

SCHEDULE

平成28年(2016年)11月
西新宿の土地を購入

平成29年(2017年)12月
工事着工

平成31年(2019年)2月下旬
躯体完成・完了検査

平成31年3月中旬
新会館竣工

平成31年3月下旬
新会館へ引越し

平成31年4月
新会館での業務開始

LOCATION

最寄駅:
都営大江戸線「西新宿五丁目」駅
A1出口から徒歩3分



新会館フロア レイアウト

各フロアのこだわりをいち早くご紹介！

5階

東京都ナースプラザ事務室

東京都からの看護に関する受託事業を担当する、ナースプラザなどが配置されています。事務所の機能を考慮作られているため、職員が気持ちよく働くことができるスペースとなっています。

6階

①会議室 ②事務室 ③役員室

理事会などが開かれる会議室や協会事務室などが配置されています。

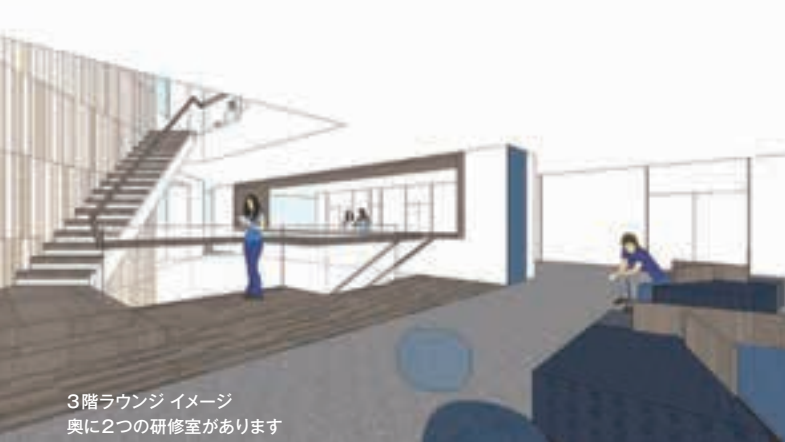


6階会議室 イメージ

3階

①研修室 ②ラウンジ

約100名が入ることのできる研修室などが配置されています。講義受講者のために、最新のプロジェクターを使い、衛星授業やタブレットを使用した研修を実施していく予定です。吹き抜けのスペースにラウンジを設け、来館者が落ち着ける空間を提供します。



3階ラウンジ イメージ
奥に2つの研修室があります

フロア 構成予定図



※ 黄色い部分は、会員の皆さまが使用できる場所となっています

4階

①研修室 ②図書室 ③オープンラウンジ ④テラス

吹き抜けの最上階。図書室を含めてオープンなラウンジを実現しました。来館者の憩いの場所として、テラスからは都庁などを眺めることができます。



4階オープンラウンジ イメージ
奥に図書室があります

2階

①研修室 ②協会事務室 ③ナースバンク東京 ④ラウンジ

協会事務室・ラウンジから4階まで吹き抜けでつながっており、開放的な空間となっています。また、利便性を考慮したナースバンクも配置しています。



2階ラウンジ イメージ
3階、4階につながる吹き抜けの空間

1階

①エントランスホール ②大研修室 ③ホワイエ

約400名が入ることのできる横長にレイアウトされた大研修室は、壁一面に直接映写する仕様で、二面映写ができるダブルスクリーンを採用しています。総会、学会などの大きなイベントに対応でき、さらに、部屋を分割して利用することもできるため、レイアウトが自由自在に展開できるフレキシブルな作りとなっています。



1階エントランスホール イメージ
奥に大研修室があります

4階テラス イメージ
木のぬくもりあふれるウッドデッキのテラス
眺望も抜群の癒しのスペースです



禁煙支援のために、看護師だからこそ伝えられるたばこの怖さ

保健師、助産師、看護師の世界で活躍する一人の人物をクローズアップし、紹介する本コーナー。

第4回目は、国立がん研究センター中央病院の禁煙対策ワーキングチームの一員として禁煙支援に取り組む鈴木恭子さんにお話をうかがった。

実は、鈴木さんは禁煙外来の看護師ではない。
「当院の禁煙対策ワーキングチームは『当院職員の禁煙』を推進するために作られたものなんです」
国立がんセンター中央病院（以後「がんセンター」）はがんの専門病院であるだけに、喫煙によって健康を害したと考えられる患者さんが少なくない。その病院で職員が喫煙によって、またはその周りの人が受動喫煙によって害を受けているならば、それを看過せず、病院として積極的な対策をとろうという趣旨で設置されたチームだ。
「まずは実態を知るために調査をしたところ、職員の喫煙率は5%ほどでした。一般の18%に比べればかなり低い割合ですが、実数としては150人近くに上ります」
チームでは年に二回、禁煙キャンペーンとして禁煙に関するポスターやパンフレットなどを展示・配布したり、専門家を招いてたばこの害を解説する講演を行ったりしている。



禁煙キャンペーン期間中は、このようなブースが院内に複数設けられる。資料を持ち帰る職員（特に医療職）が年々増えてきた。

「でも、まだまだ院内への周知は不十分で、これからどう喫煙者に広めていくかが大きな課題です」と鈴木さんは言う。

がんの予防もがんセンターの仕事

がんセンターにおける、患者さんへの禁煙支援の柱は禁煙外来だ。全身麻酔の手術を控え、主治医に禁煙を指示されてやむなく禁煙外来を受診するという人が多いが、退院後にあらためて禁煙したいと受診する人もいる。
また、国立がん研究センターのがん対策情報センターには、「たばこ政策支援部」がある。ここでは、看護職や自治体・企業の保健事業担当者などを対象とした禁煙支援分野の人材育成や、たばこに関する意識調査を行っている。
「がんになった方の治療だけでなく、予防も私たちの大事な仕事なんです。对患者さんはもちろん、対社会、対職員、そして自身が医療者であるか否か……対象や立場に関わらず禁煙を推進しようというのが、がんセンターの目指していることだと私は理解しています。私もがんセンターの禁煙対策をすべて把握しているわけではなく、ワーキングチームのメンバーになったことを機に勉強し始めたばかりなのですが」と鈴木さんは照れ笑いを浮かべた。

新しい世界への挑戦・努力をいとわない

というと、以前から喫煙問題に強い関心があったからワーキングチームに入った、というわけではないのだろうか。
「ええ、上長から指名されただけなんです（笑）」
しかし、ここで「私にはできそうもありません」と断らないのが鈴木さんだ。

略歴
国立国際医療センター病院附属看護学校卒業後、国立がん研究センター中央病院に入職。
2007年 摂食・嚥下障害看護認定看護師資格取得
2016年 看護師長に昇任



「禁煙を続けられているのは看護師さんとのあの会話があったから」
そう言ってもらえる声かけができたと思います

「もともと、自分であれこれ関心をもって、勉強してステップアップしていくタイプではないんです。ただ、『やってみたら？』と勧められたこと、『やってほしい』と頼まれたことは挑戦するようにしています」
きっかけさえつかめば、挑戦も努力もいとわない。
「いったんやるとなったら、及び腰で嫌々やるのではなくて、新しい世界にはこんな楽しみもあるんだ、ということを見つけてやっていきたいです」。

摂食・嚥下障害看護認定看護師に

がんセンターに務めて10年となる節目の年、摂食・嚥下障害の研修に行ってみないかと当時の師長に勧められた。所属する頭頸部腫瘍科、食道外科、呼吸器内科には摂食・嚥下障害をもつ患者さんが多かったため、勧められるまま研修に出かけた。
「それまで自分がきちんと知らなかった嚥下のメカニズムにすごく驚きました」
ぐっと引き込まれた鈴木さんは勉強を続け、摂食・嚥下障害看護の認定看護師資格をとった。
「行きがかり上とはいえ、これなら自分は得意という分野を持てたことで仕事のやりがいが増したと思います。ですから今は、研修などがあれば若いスタッフに『行ってみたら？』と勧めるようにしています。タイミングがうまく合えば、その人にとって世界を広げるきっかけになるかもしれません」

看護師だからできる禁煙支援

昨年、自分の病棟の患者さんを対象に喫煙歴調査を試みた。
「私の所属する病棟は肺がん、咽頭がん、舌がんなど喫煙が原因の一つと考えられるがんの患者さんが多い病棟

なんです。たった一回の当病棟だけのサンプルですが、患者さん40人のうち喫煙歴のある方は75%という高い割合でした」
中には手術前に禁煙したことをきっかけに、今後も禁煙を続けたいという人もいた。つまり、禁煙支援の場は必ずしも禁煙外来にだけあるわけではなく、どんな病棟でも何気ない会話の中にある、ということだ。
「東京都看護協会で開催された村松弘康先生（中央内科クリニック院長／日本禁煙学会理事）の講演を伺った時、たばこの怖さをまざまざと感じました。たばこの煙を吸ったとたんに毛細血管から血流が失われる映像や、目には見えなくても煙がずっと遠くまで漂っていく様子をレーザー光で照らした映像は衝撃的でした」
たばこの害を看護師が頭で理解するだけでなく実感としてわかっていれば、患者さんと話す時にも伝わり方が違うはず。そう思った鈴木さんは「ぜひ、当院でもそのお話を」と村松氏に依頼し、禁煙キャンペーン中に講演会を開催した。
「看護師は患者さんともっとも日常的に接する相手。喫煙について話す機会もあります。患者さんが退院後にも禁煙を続けられて、『続いているのは、看護師さんとのあの会話があったから』と言ってもらえるような声かけができれば、と思います」

東京2020オリンピック・パラリンピックで 看護職に期待すること

講師：宮本哲也 氏

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会運営局医療サービス部 部長

2018年11月17日に東京都千代田区で開催された「平成30年度 東京都看護協会 看護研究学会」の中で、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会運営局医療サービス部 部長の宮本哲也氏による特別講演が行われました。2020年夏の大会開催時に展開される医療サービスとはどのようなものか。また、その中で看護職に求められているのはどのような役割か。開催準備に邁進中だという宮本氏の話に、会場に集まった人々は熱心に耳を傾けていました。

広範で多岐に及ぶ医療サービスを展開

2020年夏に開催される東京オリンピック（7月24日～8月9日）とパラリンピック（8月25日～9月6日）。「スポーツには、世界と未来を変える力がある」という大会ビジョンの下、オリンピックで33、パラリンピックで22の競技が実施されます。これに伴い私たち東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、選手やコーチ陣、その他の大会関係者、そして観客に向けた広範で多岐に及ぶ医療サービスを、選手村が開村される7月上旬から約2か月間に渡って展開する予定です。

セキュリティの確保などの理由から、オリンピック・パラリンピックでは、選手らを対象とした医療サービスと観客らを対象とした医療サービスを分けて整備・実施しなければなりません。主な体制としては、東京・晴海に整備が進む選手村や東京をはじめ全国43か所に及ぶ競技会場に選手用医務室と観客用医務室を設置・運営します。さらに観客向けの医療サービスの中には、応急手当セットを所持した二人一組が会場内を巡回する「ファーストレスポnder」を配置。傷病者の早期発見と迅速な救護で医療機関に搬送する方を減らし、全体として地域医療の負荷を軽減していくことを図ります。これは、この大会で特に懸念されている暑さ対策としても有効に機能するのではないかと期待しているところです。



宮本哲也（みやもと てつや）

1967年、北海道生まれ。鳥取大学医学部医学科を卒業後、大阪市・淀川キリスト教病院で臨床研修医として勤務。旧厚生省に入省後は、医政局や健康局、東京空港検疫所支所などで救急医療や予防接種などの医療行政に携わる。2016年7月から現職。東京2020大会の医療サービスとアンチ・ドーピング活動の準備・運営に携わる。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する選手や、コーチなどのチーム役員はオリンピックで1万8,000人、パラリンピックで8,000人にのぼります。さらに観客はオリンピックで780万人、パラリンピックで230万人と予測されており、そのうちの約2割が外国から来日する方々になるでしょう。このように広範で多岐に及ぶ医療サービスを展開するうえで、ぜひご協力いただきたいのが看護職のみなさんなのです。

参加する人を「支える」という役割も

確たる数字はまだ出ていませんが、大会ボランティアとして、あるいは所属団体からの派遣として、おそらくは1,000人を超える看護職の方々にご参加いただき、支えていただくことになると考えています。人数的に最も多くなるのは、やはり各競技会場で観客に向けた医療サービスにあたっていただく方々になるでしょう。看護という専門性を発揮していただく役割もありますし、救護活動にあたる一般ボランティアの指導という役割もお願いしなければなりません。さらに、ドクターと対になって各競技場での医務室を運営していただく看護職の方も必要ですし、採血を行うアンチドーピングスタッフとしての活動もお願いしたいと考えています。このような活動に少しでも興味のある方は、ぜひ積極的に手を挙げていただきたいと思っています。

また、みなさんに記憶にとどめていただきたいのは大会に参加されず、勤務されている病院に残っていただく方々の果たす役割も非常に重要だということです。なぜなら、大会に参加するために抜けた方の穴を埋めていただかなければならないからです。大会に参加されない看護職のみなさんも「支える」という意味では事実上、大会に参加していただいているのと同じなのです。

看護職のみなさん、そのほか医療関係のみなさんに支えていただきながら大会の成功に結びつけていきたいと考えています。ぜひ、ご理解とご協力をお願いします。

宮本哲也 氏

インタビュー

仕事の糧となる 貴重な経験を 積めるチャンス

東京2020オリンピック・パラリンピックで展開される医療サービスには、ボランティアとして多くの看護職が参加することが求められています。「看護とボランティアは親和性が高い」と語る宮本氏に、看護職が医療ボランティアで得られるものとは何かをお聞きしました。



「人と関わる」のが看護でありボランティア

東京2020大会の開催まであと1年半。現在、私は大会時の医療サービスの実現に向けて、さまざまな医療機関や関連団体に協力の依頼にまわっているところです。どこへ行っても感じるのは、みなさんの関心の高さです。大会に参加することの意義を理解し、「日本を世界に示すこの機会に、日本のために協力しましょう」と言っていただくことが多いように感じています。これがオリンピックの持つ力なのでしょう。

そもそも看護とボランティアは「人と関わる」という点で非常に近いものがあると思っています。他の職業の方よりもボランティアとの親和性は高いと言えるのではないのでしょうか。医療の現場において、看護職の方には医師とは異なる役割があると思います。それは医師と患者さんの間に入るという役割です。看護職の方には専門性を基礎としながらも、より患者さんに近い一般性のある理解や認識という能力をお持ちです。その能力は、さまざまな考えを持つセクションをつなぎ、医療サービス全体をコントロールしていくうえでも多に役立つと私は考えています。今回の大会でも、その能力に依るところが大きくなるでしょう。ぜひ、多くの看護職の方にその中核に入って活躍していただきたいと思います。

常に社会課題の最前線に立つ看護職

忙しい看護職の方が職場の理解を得てシフトを調整し、ボランティアとして参加していただくことは容易でないことはわかっています。しかし、いったん参加していただければ、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちとの交流をはじめ、普段の職場ではできない経験を重ねていただけるはずです。そこで得た経験は

ただその場でおもしろいというだけでなく、ものの見方が変わるなど、職場に戻ったときの糧になるでしょう。過去に同様の医療ボランティアの経験をされた看護職の方たちも、みなさん「非常に有意義だった」とお話されていますので、その点は私も自信を持ってお勧めできます。

東京2020大会は国際的なイベントなので、必然的に国際交流も生まれます。患者さんが外国人だというケースもあるでしょうし、ともにボランティアとして活動する仲間が外国人だというケースもあるでしょう。参加を検討されている方の中には語学に不安を抱かれている方も少なくないようですが、ある程度の会話や初期対応ができるレベルで十分です。また、患者さんの中には「安心してください」と手を握るだけで落ち着く方もいらっしゃいます。まずは、相手のことを理解しようという姿勢が大事なのではないでしょうか。でも、それは多くの看護職の方々がすでに身につけておられることだと思います。

今回の医療サービスのテーマは「国際」ということになりますが、そもそも看護職の方々は日頃から医療の現場で「高齢化」や「子どもの虐待」など、社会が抱える課題の最前線に立って働いているわけですから、今回も自信を持って臨んでいただきたいと思います。語学のこともぜひ前向きに捉えてください。これから日本で生活する外国人の方や海外からの旅行者がますます増えることを考えれば、今回のことを語学習得のきっかけにいただければよいのではないのでしょうか。

自国開催のオリンピックやパラリンピックは、ほとんどの方にとって二度とないことだと思います。イベントですから楽しむ心も大切にしつつ、有意義な機会にしたいきたいと思います。

ラグビーの魅力、ぜひスタジアムで！

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会
特任理事／広報部 部長 藪木宏之 氏

「4年に一度じゃない。一生に一度だ。-ONCE IN A LIFETIME-」をキャッチコピーに、ラグビーワールドカップ2019™日本大会（RWC2019）が2019年9月20日から11月2日まで開催されます。オリンピック、FIFAワールドカップと並ぶ世界三大スポーツイベントのひとつであるRWC2019の醍醐味を、（公財）日本ラグビーフットボール協会 特任理事 広報部 部長 藪木宏之氏に語っていただきました。



ラグビーを日本の生活文化に根付かせたい

RWC2019では、出場権を獲得した強豪20か国が日本全国12都市会場で計48試合を行います。東京都（東京スタジアム：調布市）では、計8試合が予定されており、都内6か所でキャンプも行われます。

RWC2019の認知度は、試合会場のある12都市やキャンプ地になる自治体以外ではまだ低いのが現状ですが、世界中から約40万人の観客が訪れる見込みですので、東京都だけでなく日本全国がラグビーで盛り上がり、大会後もそのレガシーとしてラグビーというすばらしい競技が生活文化にしっかりと根付くようになればいいなと思っています。

「ノーサイドの精神」を世界へ

大会組織委員会が募集した大会ボランティア（2018年7月18日に募集は終了）には、いろいろな資格を持った人たちがいて、これからどこにどういう人を配置するかを決めていきます。もちろん大会の実施にあたって、選手等の大会関係者や観客に向けた広範かつ多岐にわたる医療サービスを提供する必要がありますから、各会場に看護職の皆さまをはじめとする医療スタッフを必ず配置することになっています。不測の事態が起きたときの対応のために、会場に看護職の皆さまがいてくださると、とても心強いですね。観客も安心して試合を満喫できると思います。



藪木宏之（やぶき ひろゆき）

1966年3月12日生まれ。大津高校（山口）→明治大学→神戸製鋼で活躍。ポジションはSO（スタンドオフ）、SH（スクラムハーフ）。神戸製鋼では1988年～1994年の全国社会人大会7連覇に大きく貢献。2016年4月から（公財）日本ラグビーフットボール協会にて特任理事、広報部 部長を務める。

今大会のボランティアチームは「TEAM NO-SIDE」と名付けられています。試合終了を意味するNO-SIDE（ノーサイド）とは、「どんなに激しく戦っても、試合が終われば、敵味方なく称え合い、感謝し、永遠の友情を誓い合うスピリット」で、日本が独自に育んできた精神です。ボランティアの方々はもちろんのこと、会場に訪れた皆さまもこのノーサイドの精神を体現し、世界はひとつであることをすべての国・地域に発信してほしいと思っています。

スタジアムでしかわからないラグビーの素晴らしさ

RWCは、4年に1度、国を背負って世界一を争う真剣勝負の場で、普通の国際試合にはない独特の雰囲気があります。その中で戦う選手たち、本気で応援する各国のサポーター、この雰囲気をぜひスタジアムで味わってもらいたいですね。また、ラグビーの試合会場では鳴り物がありません。選手たちが体をぶつけ合う音、芝生のおい、大きな歓声、そういうものもぜひスタジアムで感じてほしいと思っています。

そして何より、選手たちのビヘイビア（ふるまい）に注目してください。激しく戦った選手たちが試合後にお互いを称えあい、マッチオフィシャルに感謝の気持ちを持ち、観客の皆さんへもあいさつをし、すべての関係者にリスペクトを表します。ラグビーでは、昔から選手たちがそういうふるまいをしてきました。そういった選手たちのふるまいを生で見ていただきたいし、生で接してほしいと思います。強いチームだけがこのようにふるまうわけではなく、どのチームでも、どの試合でも、48試合すべての会場でそういったシーンが見られます。テレビなどでは感じられない、スタジアムでしかわからないことです。ぜひ、試合会場まで足を運んで体感してください。

「初心者向け英会話研修」絶賛開催中！

多摩地区開催支援病院のご協力に感謝します！

開催2年目を迎えた平成30年度「初心者向け英会話研修」は、現在第Ⅳ期を開催中です（多摩地区：独立行政法人国立病院機構 災害医療センター）。これまでに第Ⅰ期（4月24日～7月5日）、第Ⅱ期（7月17日～9月27日）、第Ⅲ期（10月9日～12月13日）、合わせて474名の方々に受講いただき、451名が「受講証明書」を手に入れました。

今年度から開始された多摩地区出張研修は期毎に研修場所を変え、会員の皆様方の利便性を考えた運営で好評をいただいております。中でも第Ⅱ期多摩地区研修会場の稲城市立病院では本研修をきっかけに英会話クラブが立ち上がったとのこと。今後も出張研修が多摩地区で反響を巻き起こして下さることを期待したいと思います。

昨年は記録的な猛暑で、第Ⅱ期では台風が東京に接近し、急遽振替開催を余儀なくされるというハプニングもありました。日々の激務に加え、こうした厳しい天候にも屈せず、時に「振替制度*」を上手にご利用いただき、皆様熱心に受講されました。

受講生からは「実用的な内容で現場で使える」「ネイティブ講師と日本人講師の丁寧な指導に満足」などのご感想をいただいております。「受講証明書」を交付された方を対象に実施しております「英会話練習教室：English Parrot」も本研修終了後の継続学習として定着しています。

今後も、研修内容をさらに充実し、「夜クラス増設」「中級以上のクラス増設」の検討など、受講生の皆様のお声を反映した運営に努めてまいります。

平成31年度も、本研修は継続実施の予定です。新会館で気分も新たに“グローバル看護人材”を目指しましょう！多摩地区出張研修で今度はあなたにお会いするかもしれませんよ！多くの皆様のご参加をお待ちしております。“Please come and join us!”



「受講証明書」Get！満面のSmile！
英会話クラブも立ち上げました！
（第Ⅱ期多摩会場：稲城市立病院）



日本人＆ネイティブ講師の指導でシナリオ作り
（第Ⅲ期多摩会場：青梅市立総合病院）

【平成30年度初心者向け英会話研修実施要領（抜粋）】

- 受講証明書発行要件：
全10回のうち8回以上出席
- *振替制度（グループの振替）：
※回数：10回中3回は出席扱い（4回目～欠席扱い）
※同じ週のみ振替可能（事前連絡必要）

「中国語会話研修」がスタートしました

アジアからの訪日急増中！現場の要望にお応えします！

2020年東京開催のオリンピック・パラリンピックがもう来年に迫り、国際化の気運が益々高まっています。

同時に少子高齢化に伴う労働力不足を補うため、外国人労働者数も増加の一途をたどり、2016年度は100万人を超えています。こうした背景から、医療現場ではアジアからの訪日外国人患者の対応が急務となっており、「初心者向け英会話研修」がスタートしたことを発端に、アジア圏の語学研修のご要望をいただくことができました。

そこで当協会では、10月から訪日外国人患者の中でも、特に急増する中国語圏患者に対応可能な看護人材の育成を目的とした「中国語会話研修」を企画いたしました。通訳として活躍されている中国語ネイティブの講師が手厚く指導いたしますので、中国語が初めての方でも安心してご参加いただけます。

英語プラス1の語学力をとお考えの方、将来のグローバル看護人材を目指す方！皆様ふるってご参加ください！



開講式で役員から受講者へ激励！



現役の通訳者として活躍中、藤上講師



初めての中国語に興味津々！

【平成30年度中国語会話研修概要】

- ・医療現場で役立つ基本の中国語学習支援
- ・定 員：20名
- ・開催期間：6か月間 全18回（前期9回・後期9回）
前期 平成30年10月3日～12月19日（毎月第1・第2・第3水曜日）
後期 平成31年1月9日～3月6日（毎週水曜日）
- ・時 間：10:00～11:30（90分）
- ・内 容：前期 発音・文法・簡易なフレーズの訓練など
後期 基礎会話・簡易な問診・患者への指示など
- ・開催場所：東京都看護協会 地下教室（予定）

保 助 看 のページ

～印象に残ったこと～

助産師

妊産褥婦さんとの関わりで大切にしていること

東京医科大学病院

やまうち あきな
山内 秋奈



患者さんやスタッフとのコミュニケーションが大切

助産師として入職してから6年目となりました。分娩介助や保健指導室、助産師外来、母乳外来、両親学級などの助産師業務をはじめ、病棟でのリーダーシップや学生・新人指導にも携わることも多くなりました。患者さんとの一つ一つの関わりやスタッフとのチームワークを大切にしながら、日々助産ケアに励んでいます。

妊産褥婦さんとその家族に寄り添った育児支援

当院は大学病院であり、ハイリスクの妊娠・分娩管理を行っています。そのような中で、急変の場面に立ち会うことも多くありました。急な母体搬送や緊急帝王切開でイメージとは異なった出産や、産後の身体回復の遅

延・マタニティブルーなどにより育児がスムーズに行えないなど、妊産褥婦さんから「こんなはずではなかった」との言葉が聞かれることがあります。

妊娠・出産・育児の過程はめまぐるしく、その中でイメージとは異なった体験や何かしらのトラブルが生じると身体的・精神的負担が多くなり、育児行動への影響が生じることがあります。そのため、お母さんが育児を自発的に、退院できるようサポートすることがとても大切だと感じます。その方の身体の回復状態や妊娠出産体験の受け止め、精神状態を確認しながら、少しずつ目標を決めて親役割が獲得できるように支援しています。

さらに、ご家族や地域のサポートもとても大切であり、お母さんとそのご家族が実現可能な育児方法を一緒に考えていくことが大切だと感じます。「ここまでこれでよかった、これならできそう」と希望を持つことができます。妊娠、出産に様々なエピソードがあるお母さんが楽しく育児がスタートできるよう、これからも妊産褥婦さんとそのご家族と寄り添うケアができるようにしていきたいです。また、それらを学生や後輩にも伝えていきたいです。

胎児モデルのゆうちんを持って、プリセプティーと一緒に



保健師

若年ママたちとの関わりを通して

練馬区石神井保健相談所

とみやま めぐみ
富山 めぐみ



交流を通じたママたちの変化が励み

練馬区の保健相談所の保健師活動は地区担当制になっており、母子・精神保健活動が大きな役割を占めています。区民の方の相談の中には、困難な健康問題を抱える方も多く、話を聞き、一緒に考えることしかできない場合も多いと感じています。また、区民の方への支援を通して、自分の保健師活動を見つめなくてはならないことの連続で

もあります。

その中でも、若年ママたちとの関わりは多くのことを考える機会になりました。妊娠により高校を中退、社会経験もなく、実父母によるサポートも得られない方が多く、定期的な訪問により、子どもの発達の確認や今後の成長について支援を続けています。その中で一人のママから、「同じ年齢で出産した人はいますか？ 会って話をしてみたい」と言われました。彼女からの相談は初めて

看護師

患者さんとの関わりを通して

東京医療センター

とくなが ななみ
徳永 奈々美



患者さんの苦痛をいち早く感じ取れる看護師へ

看護師として働きはじめてから、様々な患者さんとの出会いました。病状によっては身体に強い苦痛や、精神的に不安定となっている方も多くいます。そんな方々の苦痛に寄り添うことができるいちばん近い存在が看護師だと思います。私は、患者さんの辛さをいち早く感じ取り、和らげることができる看護師になりたいと思っています。

患者さんからの「ありがとう」が自分の看護を見つめる機会に

私がそう思うようになったのは、ある患者さんとの出会いからです。その方は頻繁に苦痛を訴え、その都度看護師が対応し、症状を緩和していました。しかし、苦痛症状はとれず、患者さんは辛い日が続きました。そんな時に私が受け持つことになりました。他にも患者さんを受け持つ中で、一人に時間を費やすことができず、苦痛を抱える患者さんに私は十分なケアが行き届かなかったのではないかという思いのまま、その日の業務を終えました。

その後、徐々に症状が改善した患者さんは、ある日私

に向かって深々と頭を下げ「いちばん辛かった時に、みてくれてありがとう」と言葉をくれました。私は素直に嬉しく思う反面、「あの時、もっとできたことがあったかもしれない、この言葉に見合う看護はできていたのか」と自分の看護を振り返りました。そして、改めて看護師は患者の支えとなる存在なのだと実感し、同時に看護師としての責任を強く感じました。この時の患者さんの「ありがとう」は、私に看護の大切さを教えてくれ、自分の看護を振り返る機会をくれた貴重な言葉となりました。

患者さんからの感謝の言葉は、とてもうれしいものです。だからこそ、その言葉に対して真摯に向き合い、自分の看護を見つめていくことが大切だと思います。私はこれからも、常に患者さんの辛さに寄り添い、一人ひとりに合った看護で応えられるように頑張っていきたいと思っています。

看護計画を先輩としっかり確認！ 真剣です



で、何とか方法を考えたいと心を動かされました。職場内で相談し、管内で子育てをしている同年代のママが集まる場を作りました。地域で長く子どもたちを見守っている主任児童委員にも会の参加協力を願い、地域の子育て先輩ママとして保健師以外にも相談できるようにしました。月1回の会では、ママたちのわからないことを中心にいっしょに勉強し、交流を行っています。自分が若いことを引け目に感じていたり、外に出て他のママと話が合わず外出できなくなっていたママが交流を通して変化していく様子や、育児のこ

とを教えてもらえてよかったと言ってくれたことは、保健師としても励みとなっています。

一つ一つの関わりを大切に専門性を生かしていきたい

主任児童委員は、地域の祭に誘ってくれたり、メル友になって保健師とは違う方法でママたちを支えています。一方で、主任児童委員からは、「子育ての正しい知識は保健師さんからよろしくね」と言われています。24時間365日子育てを支援するためには保健師が一人で抱え込むのではなく、ママ自身の力を引き出せるような関わりや安心して子育てができる体制づくりが大切であると学びました。その中で保健師の専門性を生かし、これからも一つ一つの関わりを大切に、仕事をしていきたいと思っています。



職場の心強い仲間たち

第1回 海外ボランティア研修企画 ハワイボランティア研修

おおはしすみえ
報告者：大橋純江常務理事

目的：看護職の海外ボランティアおよび研修希望者への支援のための企画運営
日時：平成30年10月11日（木）～10月16日（火）＜4泊6日＞
場所：ハワイ オアフ島 ホノルル
参加人数：10名 英会話研修受講者
内容：【研修】ハワイ大学 看護学部 シミュレーションセンター（1.5日間）
【ボランティア】Race for the Cure ピンクリボンウォーク（半日間）



▲修了書授与

ハワイ大学でのシミュレーション研修は、5人で1チームとなって2つのシナリオを体験しました。患者および家族役は同大学の演劇科の学生が参加するリアリティの高い設定で、まったく予想だにしない展開に、持てる英語を駆使して対応しました。スキルもさることながら、実際の急変や緊急入院患者へのコミュニケーションスタイルなど多くを学ぶ機会となり、最後に修了書をいただき緊張と感激の声があがりました。

Race for the Cure ピンクリボンウォークは、参加ボランティア団体としてオープニングで東京都看護協会のご紹介をしていただきました。早朝5時会場の

カピオラニ公園まで歩き、出展テントでのキッズゲームを担当。キッズとその家族との交流で英語を使うことに徹して“頑張ろう”と自分たちも楽しむことを忘れず参加しました。



▲ Race for the Cure
ピンクリボンボランティア

◀ハワイ大学
シミュレーションセンター研修

第51回 看護学生看護研究学会報告

（学生会ワーキンググループ おおつぼゆうこ 大坪裕子）

日時：平成30年10月2日（火）12:00～16:00
会場：文京シビックセンター
参加者：1,442名
研究発表：口演8題、誌上3題
交流ひろば：展示3校

「はばたけ未来へ あなたの看護」をメインテーマに、「第51回看護学生看護研究学会」が開催されました。例年より1か月早い開催でしたが、総勢1,442名の学生が参加し、研究発表や交流ひろばで積極的な意見交換が行われました。

山元恵子会長より、「看護研究は難しい特別なものではなく、日常の小さな疑問から生まれるものです。看護の課題をまとめ発表してください。活躍を期待します」と挨拶がありました。

研究発表では、「退院後の生活を支える看護」や「心理面を支える看護」について発表がありました。学生たちは「今」必要な

関わりを察知した工夫のある看護に、真剣に耳を傾けていました。多くの質疑応答があり、学びの深さが感じられました。

特別講演では、ラオスで看護活動を展開する赤尾和美さんから、「途上国医療から伝えたいこと『異文化・異医療』」について大変貴重な講演を伺いました。文化や生活習慣、価値観が大きく異なるなかで、その生活に溶け込む看護の提供に、感銘を受けずにはいられませんでした。場所が変わっても、患者が必要とする看護の提供には、「患者との対話」と「チーム医療」が欠かせないことを、改めて考える有意義な時間を共有することができました。



▲会長からの開会挨拶



▲会場からの質問に真剣に答える発表者たち

第52回 看護研究学会報告

（学術推進委員会委員 東京慈恵会医科大学附属病院 副院長／看護部長 おざわ 小澤かおり）

平成30年度東京都看護協会看護研究学会は、平成30年11月17日（土）日本教育会館（千代田区）で、『看護で支えよう2020』をテーマに開催されました。

特別講演は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の宮本哲也氏から＜東京2020オリンピック・パラリンピックで看護職に期待すること＞をご講演していただき、全国の看護職者の総力で、2020を全力で支える必要性を感じました。

シンポジウムは、北京、平昌オリンピックを経験された看護管理者と東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の安井はるみ氏が登壇され、予測性と準備性の重要性が理解できました。

また、ランチョンセミナーでは田村玉美氏が、パラリンピックに遠征する選手の健康を守るために、選手の生活のプロセスを細やかに見て問題解決することや、心理面を優しく力強く支える姿に、こころが揺さぶられました。

そして、示説・口演発表では、各施設から尽きない

探究心と熱心な取り組みが発表され、多くの学びを受けました。この一日で得た新たな知識や知見を明日からの看護実践に活かし、次年度に向けて研鑽を積んでいきたいと思えます。参加して下さった方、支援して下さった方々に、心から感謝を申し上げます。



▲オリンピックを経験した北京、ソウルの看護管理者を交えたシンポジウム



◀田村玉美氏によるランチョンセミナー

教育部研修係から

平成30年度認定看護管理者教育課程の実施と次年度の予定

今年度、東京都看護協会では、認定看護管理者教育課程を下記の通り開講しました。

教育課程	開催日	日数	受講者数
ファーストレベル第1回	6月5日～7月20日	28日間	75名
ファーストレベル第2回	10月29日～12月10日	28日間	76名
セカンドレベル	7月30日～10月19日	35日間	54名

【2019年度開催予定】

教育課程	開催日	日数	定員
ファーストレベル第1回	6月4日（火）～7月12日（金）	20日間	70名
ファーストレベル第2回	11月11日（月）～12月13日（金）	20日間	70名
セカンドレベル	8月5日（月）～11月7日（木）	34日間	50名
サードレベル	7月16日（火）～11月8日（金）	34日間	30名

次年度はファーストレベル、セカンドレベルに加え、隔年開催としているサードレベルを開講します。応募期間は、2月にファーストレベル、4月にセカンドレベルとサードレベルの予定です。

また、前年度日本看護協会にて改定されたカリキュラム基準に則り実施しますので、カリキュラムの枠組みや時間が変更になります。詳細は東京都看護協会ホームページをご覧ください。

皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

お知らせ

日本看護協会会員の皆さまの実務実践研修等の研修受講履歴が「キャリアナース」でご確認いただけます。看護協会主催の研修も検索可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは日本看護協会 HP まで。

修了者の声

ファーストレベル：
受講により、今までの考え方がかなり変わりました。スタッフと向き合うことの大切さを実感し、目の前のことだけでなく、先のことを考えて行動していきたいと思いました。

セカンドレベル：
現象を捉え、あるべき姿とのギャップを埋めるために可視化して、PDCAサイクルをまわしていくことが重要だと学ぶことができました。

東京都 島しょ看護職員定着促進事業

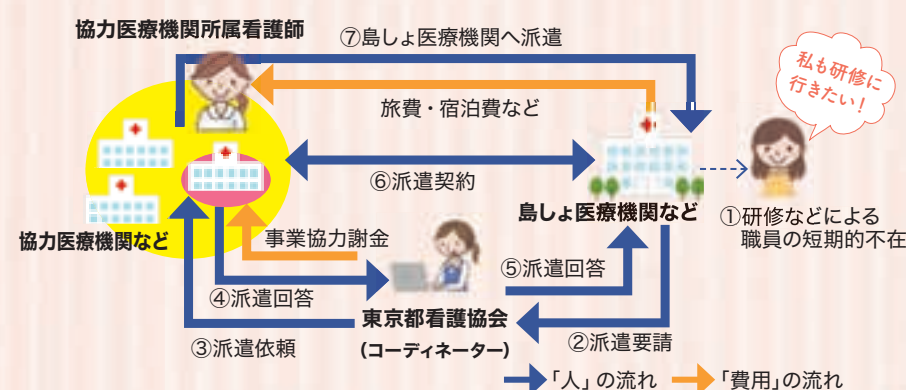
東京都島しょ看護職員定着促進事業は、島しょ地域で勤務する看護職員の働きやすい環境を整え、定着を図ることを目的に、都内で勤務する看護職員を短期間島しょに派遣すること（短期代替看護職員派遣）および、島しょ施設で研修を行うこと（出張研修）を東京都看護協会が東京都より受託して行っているものです。

短期代替看護職員派遣は今年度、4島からの依頼を受け12件の派遣を実施(予定含む)しています。今年度は、17施設より派遣看護師協力施設の登録をいただいています。この度、実際の派遣者および三宅島診療所の受け入れ状況についてご紹介させていただきます。



三宅島で活躍されているスタッフの皆さま

代替看護職員派遣のイメージ



三宅島診療所派遣支援へ行って

東京北医療センター 看護師 小澤 裕子

三宅島は東京都の離島である伊豆七島のうちの一つの島です。私は6月と8月にそれぞれ10日間、診療所の代替派遣支援に行きました。離島は入院設備や医療資源に限りがあるのが現状であり、検査や治療、搬送も含めて内地にある病院との連携が非常に大切であるということを学びました。

これまで私の勤務経験は東京都内のみでした。そのため、離島という今までにない環境で働くことができ貴重な経験、学びがありました。また、調布飛行場からわずか45分で行ける三宅島の自然の魅力も知ることができました。短期であるにも関わらず温かく受け入れてくれた診療所スタッフに感謝しています。

短期派遣事業を利用して

三宅村国民健康保険直営中央診療所 看護師長 吉田 郁恵

この派遣事業を初めて利用したのは、一昨年に職員の家族介護に伴う長期休暇が発生したことでした。昨年から、准看護師2名が看護師資格取得のため看護学校に通い始め、昨年は3回、今年度は予定も含めると5回利用させていただいています。

これまでに派遣していただいた看護師さんは、皆若く経験豊富な実力のある方々で、診療の介助業務のみならず、急患対応や予防接種など様々な業務をお願いすることができました。

さらに業務以外でも、都内病院の現状をお話いただいたり、当診療所の改善点やアドバイスなど沢山の援助をいただき、新しい情報を得たり刺激を受けたりと、とても勉強になっています。

輸入感染症に備えよう

海外渡航者や外国人移住者が増加しているため、世界のどの地域からも病原体が輸入されるような状況があります。どの医療機関においても、各輸入感染症の症状を呈した患者が突然来院する可能性があり、私たちは日頃から「輸入感染症」に対する備えが必要となります。

ほとんどの感染症は受診時にはわかっていません。そんな時に重要なのは、やはり標準予防策の遵守です。平時から手指衛生をはじめ、個人防護具の着用が適正に実施されることが重要です。また、インフルエンザやノロウイルス対策のように、標準予防策に追加して行う経路別予防策が適切に行えることも重要となります。そのことにより、二次感染を最小限にすることができます。それとともに、トリアージの段階で渡航歴や行動歴を早期に把握できるようにすることも必要でしょう。携わる医療スタッフ全員が正しい知識、正しい方法を理解し実行できるように継続的な教育が必要となります。備えあれば憂いなしです。

— 主な輸入感染症

日本にない／日本で少ない感染症

- 蚊媒感染症
(マラリア、デング熱、チクング
ニア熱、ジカウイルス感染症、
ウエストナイル熱、黄熱 など)
- 細菌性赤痢
- 腸チフス・パラチフス
- レプトスピラ症
- カンピロバクター腸炎
- MERS
- エボラウイルス感染症

日本にもある感染症

- 麻疹
- 水痘
- インフルエンザ
- 多剤耐性菌

「症例から学ぶ輸入感染症 A to Z」 忽那賢志，中外医学社，2015.

東京都助産師出向支援導入事業
出向助産師実践報告

助産師出向支援導入事業に参加して 出向2か月間での学び

東邦大学医療センター大森病院 助産師 ^{よしの えりか} 吉野英莉花



私は、平成29年度に2か月間助産師出向支援導入事業に参加しました。助産師6年目となり、後輩や学生を指導する立場として、分娩期の知識・技術の向上を目指したい、様々な分娩スタイルを学びたい、また、分娩介助の経験を増やしてアドバンス助産師の取得を目指したいと思い参加しました。出向先の病院では、分娩介助25例のうち、和痛分娩4例、フリースタイル分娩4例（側臥位3例、四つん這い1例）の経験ができました。出向先の助産師からたくさんの指導をいただき、正常分娩での分娩進行のアセスメントを改めて見直す機会となり、さらに、今後強化したい課題も見出すことができました。和痛分娩の経過、フリースタイル分娩介助では、新たな視点・技術の学びとなり、それぞれの分娩方法でのメリット・デメリット、産婦と分娩進行を共有するうえでの難しさを実感し、分娩方法が多様化する中で助産師としての在り方についても考える機会となりました。

助産師として「どんな時でも、産婦の気持ちに寄り添い、状況を共有しながら、前向きに産褥期を過ごせるような関わりをしていきたい」と強く思いました。今後は、出向での学びを生かし、後輩や学生の指導に活かしていきたいです。

◀最終日 お世話になった出向先の助産師の方々と



図書室だより

～図書室利用案内～

◆開室日時・休室日

開室日：月曜日～金曜日 9時～17時

第2・第4土曜日 13時～17時

休室日：第1・第3・第5土曜日、日曜日、祝日、

年末年始、蔵書点検期間

＊新会館への移転に伴い、下記のとおり休室します。

平成31(2019)年2月1日～新会館オープン前日(予定)

◆貸出

図書室利用カードが必要です。

お持ちでない方も当日作成できます(要会員証)。

○貸出冊数：1人3冊 貸出期間：2週間

○延長：期限内にご連絡があれば(電話・メール可)、その本に予約がない場合、1回に限り2週間の延長が可能

◆返却

○時間外は協会入口の返却ボックスに投函可能

(協会の閉館日および閉館時間帯は利用不可)

○郵送・宅配便での返却も可能

◆文献検索

図書室内の2台のパソコンで医中誌Webの検索が可能です。

◆レファレンスサービス

司書(日本医学図書館協会認定「ヘルスサイエンス情報専門員」)が調べもののお手伝いをします。

資料の探し方や文献検索の方法など、わからないことがあ

りましたら、遠慮なくお声かけください。

メール(tosho@tna.or.jp)でのご相談も受け付けています。

＊ノートパソコン持込み可能(個人机にコンセント設置)

＊無線LAN使用可能

平成30(2018)年度上半期(4～9月)貸出ランキング上位図書

貸出順位	書名	編著者	請求記号	出版社	出版年
1位	看護管理学習テキスト 第2版 第4巻 看護における人的資源活用論	手島恵	N230	日本看護協会 出版会	2016-2017
2位	いいことがいっぱい起きる！ 「ほめ言葉」ブック	平木典子, アサーション 研究グループ	N140	大和出版	2008
3位	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	159	マガジンハウス	2017
〃	会話が続く、上手なコミュニケーションができる！ 図解 相手の気持ちをきちんと<聞く>技術	平木典子	N140	PHP 研究所	2013
〃	学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 第2版	村中陽子, 玉木ミヨ子, 川西千恵美	N210	医歯薬出版	2013
〃	スタッフの主体性を高めチームを活性化する！ 看護のためのポジティブ・マネジメント	手島恵	N230	医学書院	2014
〃	教えることの基本となるもの 「看護」と「教育」の同形性	目黒悟	N240	メヂカルフレンド社	2016
8位	看護師のためのアドラー心理学 人間関係を変える、心に勇気のひとしずく	岩井俊憲, 長谷静香	N140	日本医療企画	2017
〃	Q&A 看護師長のための目標管理 病棟の成果とスタッフの成長が見える運用法	河野秀一	N230	メヂカルフレンド社	2013
〃	看護事例でわかる部署目標・戦略策定 SWOT クロス分析	深澤優子	N230	日総研出版	2015
〃	知る・活かす看護管理学	黒田美喜子	N230	PILAR PRESS	2015
〃	チームの連携力を高める カンファレンスの進め方 第2版	篠田道子	N230	日本看護協会 出版会	2015
〃	看護学臨地実習ハンドブック 第5版 基本的考え方とすすめ方	宮地緑, 中田智子ほか	N246	金芳堂	2017
〃	ワークシートで指導と評価がラクラクできる！ 臨地実習指導サポートブック	足立はるゑ, 堀井直子	N246	メディカ出版	2011

Pick
up!

8位

『看護師のためのアドラー心理学 人間関係を変える、心に勇気のひとしずく』
岩井俊憲, 長谷静香 共著(日本医療企画, 2017年)

【内容紹介】(帯の紹介文より)

折れそうな心、疲れた心への処方箋一元気・活気・やる気・勇気が湧いてくる！

「完璧な看護師」よりも「幸せな看護師」に

看護学校講師、看護師の実体験を踏まえ、看護師目線で悩みを解決！

＊まずは、自分の心に「頑張っているね」の一言を ＊短所を長所に変える「リフレーミング」

＊あなたの1日、1年を変える「オセロの法則」

＊「言葉」「イメージ」「行動」を味方につけて、なりたい自分になる ほか。



東京都 ナースプラザだより

ようこそ ナースプラザへ！

東京都ナースプラザは「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、東京都の指定を受けたナースセンターとして、看護職の確保・定着に関する4つの事業、①ナースバンク

②研修 ③看護に関する普及啓発 ④看護職員地域確保対策 を行っています。

1 ナース バンク

求人求職・資格取得のご相談、離職時の届出

【看護職の皆さま】

ナースプラザ内で就職相談会を開催するほか、自治体や医師会主催の就職相談会にも出張して運営に協力しています。また、都内7カ所のハローワークのハートフルワークコーナー(人材確保・就職支援コーナー)でも相談を行っていますので、こちらもどうぞご利用ください。

【看護職を採用する施設の皆さま】

求人票は労働条件だけでなく、施設の魅力や特徴、求める人物像などを伝える手段です。
ナースバンクの「求職者に伝わる求人票づくりのお手伝い」をご利用ください。

2 研修

離職中の看護職および中小規模施設に働く看護職のスキルアップを図る研修を企画・運営しています。

新規研修の実施報告をします！

平成30年度は7科目の新規研修を企画しました。「求職者のための採血・点滴静脈内注射の基本」「在宅における感染管理」「在宅でのリスクマネジメント」「在宅での認知症看護」「急変の兆候に気づく」「アンガーマネジメント」「看護管理の基本(2日間)」です。

それぞれの研修は応募者も多く、特に、「急変の兆候に気づく」はとて

多くの方々の申し込みをいただきました。

参加者の声には“観察の要点や報告のポイントなど学ぶことができた”

“とても理解しやすく楽しく学ぶことができた”などの感想が聞かれました。

次年度も新規研修を企画しています。楽しみにしててください。



3 看護に関する 普及啓発

看護の魅力をご紹介します

情報誌「やっぱり看護が好き」を年2回(3月・9月)発行しています。これからの看護を知るインタビュー、復職やキャリアをテーマにした座談会、おすすめ研修などをご紹介します。

最新号(Vol.68)をはじめ、バックナンバーについてもホームページに掲載していますので、是非

ご覧ください。

ホームページではナースプラザが取り組んでいる事業についてご案内していますので、皆様のご訪問をお待ちしています。

ホームページ昨年度年間アクセス件数 約13万件
URL <https://www.np-tokyo.jp/>



4 看護職員地 域確保対策

応援します！ きらり輝く看護組織づくり

200床未満の病院を対象に、看護師等就業協力員が訪問し共に考え魅力ある職場づくりを応援します。
2月13日(水)説明会を実施します。お気軽にご参加ください。

看護職の職場復帰を応援します！

東京都が指定した病院で年2回(1日、5日、7日の3コースから選択)実施する「手厚くしっかり体験コース」と、実施施設の計画した研修期間で受講する「気軽にさくっと体験コース」(4時間から3日間コース)の研修に取り組んでいます。

お知り合いなどで退職してから長く職場を離れ、中々踏み切れない方などにご紹介ください。多くのご参加をお待ちしております。

お問合せはコールセンターまで

TEL：03-5229-1525 受付時間：(平日)9時～16時30分

お電話お待ちしております。

第1回 介護&看護EXPO[東京] 出展報告

日時：平成30年9月12日(水)～14日(金)
10:00～18:00(14日のみ17:00終了)
会場：幕張メッセ



▲公益社団法人東京都看護協会 ブース

▼巧みな話術で聴講者を魅了する與座講師



《看護セミナー》

- ①テーマ：臨床で使えるワンポイント英会話
講演者：英会話研修講師 與座卓
- ②テーマ：東京都医療事故等支援団体連絡協議会の活動について
講演者：常務理事 大橋純江
- ③テーマ：安全な経鼻栄養チューブの管理を目指して
講演者：会長 山元恵子

大阪では4回開催されている「介護&看護EXPO」が東京で初めて開催され、当協会は「命と向き合うあなたを支えたい」をキャッチコピーに初出展いたしました。看護セミナーでは、山元会長、大橋常務理事、英会話研修講師である與座氏による講演が行われました。各セミナーとあわせて、東京都看護協会の事業紹介をブースで展開し、看護職の自己研鑽のための教育プログラムをはじめとして、協会が運営する訪問看護ステーション、入会による会員特典など、来訪者へご案内いたしました。来訪された方は、3日間で150名を超え、当協会の活動について多くの方に紹介できました。

病院・福祉設備機器が一堂に集う専門展示会 HOSPEX Japan 2018 出展報告

日時：平成30年11月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00
会場：東京ビックサイト 東展示棟



◀左から、佐野副会長、山元会長、大橋常務理事、市川祥子さん

《看護セミナー》

- テーマ：グローバル社会に対応できる人材の育成～看護職の海外教育交流～
- 講師：会長 山元恵子
- ラオス2“ヴィエンチャン”ボランティア研修（講演者：副会長 佐野廣子）
 - ハワイボランティア研修報告（講演者：市川祥子）
 - 東京都看護協会 グローバル化事業の御紹介（講演者：常務理事 大橋純江）

今年のHOSPEX Japanは、「病院設備機器展」、「病院・福祉給食展」、「医療・福祉機器開発テクノロジー展」そして「介護・福祉設備機器展」という4つの展示会、さらに、国民の健康寿命の延長や健康リテラシーの向上、予防医療の発展を通じて高騰する医療費の適正化を推進することを目的とした新しい展示が3つ加わり、大規模な開催となりました。初日には、看護セミナー会場にて、山元会長をはじめ、海外のボランティア研修に参加された方々が講演され、盛況のうちに終了しました。（公社）東京都看護協会は、HOSPEX Japanにも初出展を果たし、3日間にわたり、当協会のブースに来訪された方々に、当協会の活動や魅力について紹介しました。

共同開発



在宅の暮らしを支えるために、日々の清潔ケアが楽に、簡単できれいになるように、ビジョンとともに「清潔ケアシリーズ」を共同開発しました。病院で、施設で、在宅で、疾病や障害とともに暮らす人々の「生活の質」を向上したい、その人らしく暮らしていける社会に貢献したい、そんな思いを「清潔ケアシリーズ」に込めました。

公益社団法人 東京都看護協会 会長 山元恵子



2019年
2月発売

2019
年度

東京都看護協会・日本看護協会 入会受付中です

継続入会の方（自動更新です）

口座振替

2019年度初回引落日 2019年1月28日(月)

【入金確認について】

- ・会員マイページ『キャリアナース』に反映されるまでに数日かかります。
- ・ご自身の通帳を記帳していただければ引落日当日にご確認いただけます。
- ・資金不足等、振替が実行できなかった方にはご自宅宛にコンビニ払込票を発送いたします。後日ご登録の銀行口座へ入金されても引落しされませんので、2019年度の年会費はコンビニエンスストアでお支払いください。
- ・前年度、口座情報不備（印鑑相違等）で未登録の方は、速やかに変更届をご提出ください。

施設とりまとめ 銀行振込 コンビニ収納

次年度は2019年4月1日より開始いたします。

機関紙（協会ニュース・会報）や研修受講料等に影響が及ぶますのでお早めにお振込ください。

新規・再入会の方

2019年度用入会申込書（ピンク色で印字）を取り寄せてお手続きください。

- ①入会申込書を会員登録事務局へ郵送
- ②会費の納入

（口座振替／銀行振込／コンビニ収納）
以上で手続きは完了です！

※確認事項がある場合がございますので、連絡先電話番号を必ずご記入ください。

他道府県から東京都へ移動される方

会員マイページ『キャリアナース』で申請するか入会申込書を取り寄せ、お手続きください。

年度途中で東京都看護協会へ移動される場合、移動元にて2019年度年会費納入済の方は入会金5,000円のみご納入いただきます（年会費は免除）。ただし、平成6年度以降に東京都での入会履歴のある方は入会金・年会費共免除となります。

ご退職の方

会員マイページ『キャリアナース』で個人会員に変更してください。機関紙等はお自宅へお送りいたします。インターネット環境にない場合は、東京都看護協会 会員係までご連絡ください。

※住所変更の申請がないために転居先不明で送付物が本会へ多数転送されておりますので、必ずご申請（ご連絡）ください。送付物不要の場合は送付停止にいたします。

【他道府県へ移動される場合】

所属を東京都看護協会から他道府県看護協会へ変更する場合、既に東京都で2019年度年会費納入済であっても入会金や年会費等が発生する場合がございますので、移動先の道府県看護協会へお問合せください。

退会を希望される方

東京都看護協会のホームページより退会届をダウンロードしてご記入のうえ、東京都看護協会会員係宛に郵送してください。

●即時退会

退会届の到着日をもって退会とさせていただきます。送付物は停止いたします。

●退会予約

今年度末（2019年3月31日）まで会員有効期限があります。機関紙等は3月までお届けいたします。

（どちらかご選択ください。尚、今後の参考のため退会理由もお聞かせください。）

《お問合せ先》

公益社団法人東京都看護協会 事業部 会員係

TEL:03-5229-1732(会員係直通) FAX:03-5229-1524 Mail: nyukai@tna.or.jp

事務局からのお知らせ

平成30年度 秋の叙勲 (敬称略)

受章おめでとうございます

瑞宝双光章 は せ がわ かず こ 長谷川 和子 元がん・感染症センター都立駒込病院看護部長
瑞宝単光章 やまにし ふみ こ 山西 文子 元(独)国立病院機構東京医療センター副院長

平成30年度 寄附金寄贈者・賛助会員 御芳名

当協会の公益事業活動に対し、深いご理解のうえ、当協会の円滑な運営に貢献されます御芳名を、深い感謝の意を込めて、こちらに掲載させていただきます。

平成30年度 寄附金寄贈者 御芳名 (敬称略 順不同)

一般財団法人 KODAMA国際教育財団
山田 雅己 (伊豆アート 印刷株式会社 代表取締役社長)
株式会社 ケアコム

平成30年度 賛助会員 御芳名 (敬称略 順不同)

東洋羽毛首都圏販売株式会社 一般社団法人 日本能率協会
ビジョン株式会社 株式会社ジェイ・エム・エス
一般社団法人 日本動物看護職協会 伊豆アート印刷株式会社
東京インターナショナル・リスク・サービス株式会社 日本光電工業株式会社
メディアスホールディングス株式会社 フォーク株式会社

<平成30(2018)年11月現在>

公益社団法人 東京都看護協会 役員等の選挙について

◆平成31(2019)年6月20日(木)に開催される「平成31(2019)年度通常総会」の終結をもって任期満了となる役員及び推薦委員について、下記により選挙を実施いたしますのでお知らせいたします。

○選挙期日 平成31(2019)年6月20日(木)

○場所 公益社団法人東京都看護協会会館 1階ホール

○立候補受付について

役員等に立候補又は推薦する委員は、他の5名以上の推薦を受けて、所定の様式(立候補届出書・立候補者推薦届)に必要事項を記入の上、平成31(2019)年3月25日(月)から3月29日(金)までに、(公社)東京都看護協会 選挙管理委員会 事務局まで届け出てください。

所定の様式が必要な場合は、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

公益社団法人東京都看護協会 選挙管理委員会事務局

〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4番17号 TEL: 03-5229-1520

○改選役職名及び改選数

役職名	改選数
副会長(保)	1
副会長(看)	1
専務理事	1
常務理事	1
職能理事(助)	1
職能理事(看)	1
地区理事(西部)	1
地区理事(南部)	1
地区理事(中部)	1
地区理事(多摩北)	1
監事(会員)	1

理事会報告

公益社団法人東京都看護協会ホームページをご覧ください。

http://www.tna.or.jp/index.php/about/rijikai_hokoku/

《当ページへのお問合せ先》

公益社団法人東京都看護協会 総務課 庶務係 TEL: 03-5229-1520